

クラス	TU306	担当教員	遠藤 由美
テーマ	子どもとおとなが育つ教育福祉 — そだちあいのための社会的養護 —		
著書・論文 研究課題等	研究課題:教育福祉問題研究 著書・論文等:遠藤編著『「そだちあい」のための社会的養護』(ミネルヴァ書房、近刊予定)、「教育福祉と社会的養護」『吉田恒雄先生古稀記念記念論文集(仮)』(尚学社、近刊予定)、「教育と福祉の権利の展開」『子どもの権利研究』7、『児童養護と養育研半世紀の歩み』などに論文掲載		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード: 教育福祉、そだちあい、子どもの権利保障、生活づくりと関係づくり			
<p>目的、内容、方法、授業計画等:私は、学生時代、児童養護施設の子どもたちが高校進学したくても、経済的な理由や施設の条件などから学べない実態に出会いました。中卒で就職せざるを得なかった人の中には、転職を繰り返し、施設から連絡が取れなくなった人がいました。学びたい子どもたちが学べる条件づくりが求められていると思い、児童養護施設の保育士さんや児童指導員さんたちと研究会活動をするようになりました。</p> <p>研究運動の中で、子どもたちを取り巻く条件が前進した面もありますが、未だに課題は山積みです。家族の貧困、子どもの貧困、実践の貧困、制度の貧困が問題です。私にとっては、社会的養護の中で生きる人たちが学びを深め、生活を切り拓いて行けるような条件を考えて作っていくことがライフワークになりました。</p> <p>今、これまでの経験を踏まえ、子どもと大人が共にそだちあう存在ととらえ、子どもがそだつためにおとなができること、おとな同士の関係形成、子どもとの関わりを通しておとなが学ぶことに注目しています。</p> <p>2022年度のゼミは、文献検討と展示作品づくり、そして実践交流の3本だてを基本とします。コロナ下でここ2年、施設見学を実施できていません。可能になり次第、取り組みます。子どもに関わる専門職に就く者として、自分自身を問い直し、以下の課題に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自分自身の生い立ちの整理 (事前の学習課題)</li> <li>(2) 児童養護施設に関わる文献検討 (有村浩『明日の子供たち』、遠藤編『「そだちあい」のための社会的養護』(近刊予定)、石塚かおる他編『子どものニーズをみつめる児童養護施設のあゆみ』等)</li> <li>(3) 児童相談所エントランスを飾る四季折々の展示作品づくり等による現場とのつながり</li> <li>(4) 現場職員との研究会での学習 (全国児童養護問題研究会、遠藤ゼミ卒業生との「教育福祉問題研究会」で学ぶ。</li> </ol>			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミでは、自前のことばでかんがえ、表現すること、ゼミメンバーと協力して課題に取り組むこと、現実から学ぶことを大切にします。他者の意見は大切に、学んだり参考にしたりすることは大いにやってほしいことですが、そのまま「うのみにする」ことは避けたいものです。自分なりに他の意見や説をどうとらえて行くのか、自分がどう感じるのか、考えるのかを大切にして、表現してください。</p> <p>せっかく福祉大の教育・心理学部にやってきて、遠藤ゼミを選択するならば、教育福祉を学んでください。講義「教育福祉論」の受講に加えて、ゼミ活動で考えあうことを楽しみにしています。合宿や研究会参加もしますので、お金もかかります。準備をしておいてください。全国児童養護問題研究会の全国大会開催が決まれば、そこに参加して学ぶことを求めます(施設実習と重ならない限り)。愛知大会となれば、大会運営もおこないます。</p>			